

## 東京 IPO 特別コラム

2022年9月28日 Vol.202

### 気が付くと来週からもう10月

さわやかな秋晴れの下、ほとんどの国民が安倍元首相の突然の逝去を悲しみ哀悼の念を捧げた国葬が武道館で開かれ故人の生前の活躍に改めて思いを馳せながらの1日となった。厳重な警戒体制の下、そうした世界の要人が集まる国葬が執り行われる中で株式相場は海外株安にも関わらず比較的底堅い展開となった。気が付くと今年もはや来週からは10月となる。米国の政策金利上昇で米国株には調整ムードが広がり、NYダウが2万9000ドルに接近。NASDAQも1万ポイントに接近中で、日本株にもその余波が押し寄せている。恐らく投資家各位の運用成果も停滞気味となっていると推察され、調整局面でなかなか手が出ない状況になっている。様々な事情で換金売りが出て3月安値を下回る銘柄も散見される中で迎える10月相場。過去の株価の変動を捉えれば格好の投資チャンスがやってきていると思えなくもないが、個人投資家にとっても機関投資家にとっても悩ましい展開が続く。

投資家の期待が膨らむ筈のIPO市場では悲喜こもごもの株価変動の物語が繰り返され、上場後に株価が大きく上昇した銘柄もあれば下落したままで下値模索を続ける銘柄もあり、全体相場の調整の中で落胆した投資家の投げすら相次いで出ているように思われる。今年はいまだに22日にIPOしてきたFPパートナー（7388）までの46銘柄がIPOを果たしているが、今週は本日から6銘柄が月末まで登場する予定となっている。

本日28日は3銘柄（ファインズ5125、グッドキューブ9561、キットアライブ5039）が一気に上場。明日29日は2銘柄（ポーターズ5126、プログリット9560）、30日はグッピーズ（5127）の上場が予定されている。9月13日の先端エンジニアリング事業を展開するジャパニアス（9558）が97%上昇、在宅医療分野の業務支援を行うeWell（5038）は公開価格に対して初値は2.3倍となり、いずれもその後も上値を追うなど明るさも出てはきたが、その後の需給悪の中で長続きしてくれないのがこのところのIPO市場の潮流。保険代理業のFPパートナー（7388）も初値は公開値に対して+5.8%と穏健なスタートとなり、その後一時的に上値を追う展開とはなったがまた初値水準以下に押ししてきた。8月までのIPO43銘柄のうち時価が公開価格を上回っているのは23銘柄で残りの20銘柄は下回った状態。それでもIPO後に株価上昇が顕著に見られるANYCOLOR（5032）やサンウェルズ（9229）、マイクロ波化学（9227）、坪田ラボ（4890）、EDP（7794）、M&A総合研究所（9552）、INTLOOP（9556）などの銘柄の存在はIPO市場に一縷の望みを与えている。本日は動画制作サービスのファインズ、WEBサイト解析サービス等のSaaS事業を展開するグッドキューブがグロース市場に登場する。既に10月も9社のIPOが発表されており、これらの中からも人気化する銘柄が出てくると期待したい。二極化が進むIPO市場の中に輝く星のような銘柄をこれからも探し出して頂ければ幸いである。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）